



# JAPANESE JOURNAL OF MATHEMATICS

JJMは2005年の存続の危機を乗り越え、継続して出版されることになりました。2006年より3rd Seriesを創刊、最高レベルのサーベイを出版する国際学術誌(年2回発行)として生まれ変わりました。

2016年、トムソン・ロイター社はインパクト・ファクター(2015)でJJMが世界の数学の対象ジャーナル全312誌の中で16位と発表しました。

JJMのインパクトファクター : 1.778

## Editors

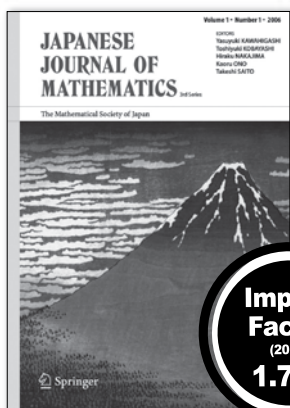
小野 薫 (京都大学数理解析研究所)

河東泰之 (東京大学)

小林俊行 (東京大学/Kavli IPMU)

斎藤 毅 (東京大学)

中島 啓 (京都大学数理解析研究所)



最新号(2016年第11巻2号)を紹介します。

### 特集・高木レクチャー

ヴェルシク (A. M. Vershik)

『グレード付きグラフの路空間の漸近理論とその応用』

**Abstract** この概説では、グレード付きグラフ(Bratteli図形)における路空間、可算群に関する不変測度といった、種々の組合せ論的あるいは解析的対象の漸近構造に関連する話題を扱う。主要なテーマはフィルトレーションの漸近構造や標準性に関わる新しい概念である。この論文の主結果の一つはフィルトレーションに対する一般的な標準性の判定基準を与えることである。古典的あるいは新しい例をいくつか考え、この観点が有益でありまた幅広い応用を持つことを示す。

ヴィラーニ (C. Villani)

『総合幾何的なリッチ曲率の下限について』

**Abstract** 測度距離空間に対する総合幾何的な(座標を用いない)リッチ曲率の下限の理論について、その始まりへとつながる条件から最近の進展まで概観する。

ヤウ (S.-T. Yau)

『リーマンと小平邦彦から複素多様体論の現代の発展へ』

**Abstract** リーマン面、ホッジ理論、チャーン類、小平の埋込定理、ヒルツェブルフ・リーマン・ロッホの定理、一意化定理の最近の進展、ケーラー・アインシュタイン計量、エルミート・ヤン・ミルズ接続のドナルドソン・ウーレンベック・ヤウの理論に関連した複素多様体の理論をサーベイする。物理に関連した数学的なアイデアについて強調する。最後に、未来の研究の方向を予想し、重要な未解決問題を上げる。

\* \* \*

カバリエリ (R. Cavalieri)

『フルビッツ理論と二重分岐サイクル』

図書委員の先生方へ: 新規購読をおすすめします。

【連絡先】 〒110-0016 東京都台東区台東1-34-8 一般社団法人 日本数学会 Fax: 03-3835-3485  
年2回発行 ISSN: 0289-2316 (冊子版) ISSN: 1861-3624 (電子版) 年間購読料 ¥25,000 + 税 / EUR198.00

彌永昌吉先生が100歳で発表された書き下ろしや、アーノルド等の特別寄稿を掲載した創刊号から、スミールやリオンス(2-1号)、コンツェビッチ(4-1号)、コンヌ(6-1号)、ラフォルク(9-1号)、ジョーンズ(11-1号)の書き下ろしを掲載した各号、最新号も冊子単位で購入できます。会員割引 ¥7500+税/冊子 もあります。

広く一般の会員の皆様からのご投稿をお待ちしております。



一般社団法人 日本数学会

投稿規定は <http://www.springer.jp/JJM/>